

穂小だより		穂別小学校 学校だより NO.3 H28.5.31	☆学校教育目標☆ ◎ほがらかな子 ◎べんきょうをがんばる子 ◎つよい体と心をもつ子
-------	---	------------------------------------	--

たくましい子どもたちを！

校長 佐々木 俊一

春のやわらかな暖かさが過ぎ、日差しの強さを感じるようになってきました。そんな中でも、子ども達は疲れを知らないように日々元気に過ごしています。

さて、少し古くなりますが、今年の1月21日のUHBの「アンビリバボー」という番組で「ナスビを売らされた少年」という題名の放送がありました。最近絵本で出ていることも知りましたが、本当のお話です。父と母はナスビ農家だったが、貧しく、食卓にはいつも売り物にならないなすび料理ばかり並んでいました。少年はなすびを見るのも嫌で、なすびに追いかける夢まで見たそうです。少年が10才になったとき、母は突然、市場で売れないなすびを少年に団地へ売りに行かせました。その時の母は、本当に鬼のようであったとのことです。結局、なすびは一つも売れませんでした。母は、「何しとんで。ちゃんと声でしたか！明日は絶対に売ってこんでいかに。」それから知らない団地に売りに行かされ母に怒られると思い、必死に声を上げ、なすびを売りました。するとだんだんなすびが売れるようになり、楽しくなってきました。それから間もなく、母が倒れ、4年間入退院を繰り返し、亡くなりました。白血病でした。少年は、父に何故なすび売りに行かされたのかを聞きました。父は、こう言いました。「おまえがなすびを売りに行っている間は母は、車で泣いていた。母は、自分が近いうちに死ぬことを知り、心を鬼にしておまえに生きる方法を教えようとしたのだ。」と。そして、大人になった少年は、こう言います。「今、大人になった僕はまだまだ駄目なところもありますが、子どもの頃になすびを売ったことがあるので、どんなしんどい事も平気です。お母さんが天国から見ていてくれるからどんな苦しい事も平気です。そして、今僕は、・・・なすびが大好きです。」

話は変わりますが、「就職活動がうまくいかない」等の理由で、毎年全国で500人を超える大学生が自らの命を絶っています。就職しても、3年以内に離職する若者も増えています。残念であり憂慮すべき事態だと思います。

この二つの事柄を結びつけると見えてくるものがあるように思います。現代は物があふれ、つらいことを我慢するということが少なくなっています。これが子どもを弱くしている一つではないでしょうか。子どもたちが失敗を恐れず、自分の目標に向かってたくましく生きていけるように心や体を鍛えていかななくてはなりません。「保護者の皆さんの思い」と「学校の思い」をたくましく生きる子どもを育てると同じ目標に向かって、多少のことではくじけない、努力の意味を知る子どもたちを育てていきましょう。

